

# 立て看板破壊弾劾 香港学生運動連帯！

全学連中央執行委員会は1月14日、駒場キャンパス内 KOMCEE 付近に設置していた「香港反政府闘争支持」の立て看板が1月8日に何者かによって破壊された件について、声明を発表しました。声明の全文を裏面に掲載しています。

## ★声明の要点★

▶ 立て看板破壊に断固抗議し、今後も香港の自由を求める運動に連帯します。また、すべての学生に対しても、香港の運動に共に連帯し、日本でも香港警察の横暴に抗議する等の活動に立ち上がることを呼びかけます。

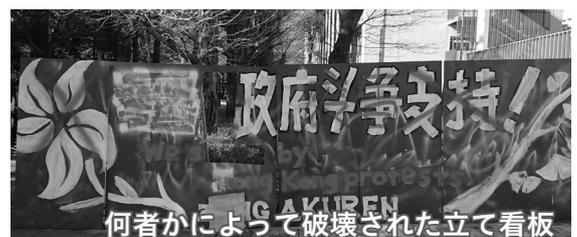
▶ 立て看板破壊を行ったのは中国人留学生である可能性があります。しかし、当然のことながら、立て看板破壊という蛮行を排外主義・民族差別的に理解することには反対します。仮にそのような言動や行動があれば、全学連はそれに対して同じく抗議します。

▶ 立て看板破壊を口実とした、警察権力の学内導入に反対します。警察権力は東大においても、学生をスパイに仕立て上げるなど、大学の自治を破壊しようと繰り返し狙ってきま



した。大学当局や学内諸自治団体には、警察権力に頼るのではなく、大学自治の原則に従って、学内の問題は学内で解決することを求めます。

▶ 今回の立て看板破壊がもたらした分断は、深めるのではなく、乗り越えなくてはなりません。こうした民族的・国籍的分断は各国の権力者の抑圧が生み出したものであって、それに踊らされてはなりません。学生は国境を超えて団結し、共に香港学生に対する権力者の暴力を終わらせよう。



**ZENGAKUREN**

▶ メール [mail@zengakuren.jp](mailto:mail@zengakuren.jp)  
▶ Web [www.zengakuren.jp](http://www.zengakuren.jp)  
▶ Twitter [@Zengakuren](https://twitter.com/Zengakuren)

## 立て看板破壊に関して、東大の学生・教員・職員の皆さんへ訴えます

私たち全学連が昨年末から東京大学駒場キャンパスに設置していた立て看板が1月9日の早朝、何者かによって破壊されました。この立て看板では、香港でキャリー・ラム政府と警察の暴力に立ち向かう学生・青年の闘いを支持し、日本から連帯を表明していました。立て看板の破壊は明らかに香港連帯の意志に対する攻撃であると考えます。私たちはこれに抗議すると共に、このような妨害行為に屈することなく改めて香港連帯を訴えるべく、以下に私たちの考えを述べます。

香港では年が明けてからも五大要求と警察組織の解体要求を掲げて100万人規模のデモが続けられています。この背景に何があるのか。1997年までのイギリスによる植民地支配、中国への返還以降の一国二制度の導入といった特殊な状況で香港の歴史は刻まれてきました。その内実は華やかな経済発展のイメージとは裏腹に、人口の2割が貧困層という全世界で最も不平等な状況であり、とりわけ若者の劣悪な住環境は「棺桶に住んでいる」と表現されるような状況です。このような中、政治的な自由すら奪おうとする中国（共産党）政府と香港政府による「逃亡犯条例」導入の画策が香港の人々の怒りに火をつけたのです。生活の改善と政治的自由を求めるこの闘いは、中国軍による武力介入との激突の一手手前まで来ており、血の海に沈められるか、根本的社会変革を実現するかの瀬戸際にあります。何があっても前者の道を歩ませるはなりません。

国外からの連帯が重要です。米トランプ政権を筆頭に各国政府は、香港の学生・青年の命がけの決起を対中外交のカードとして利用すべく、その闘いの意義を自らの「国益」に繋げようと歪曲しています。何より中国共産党政府は香港の民衆を既得権益を主張する暴徒のように描くことで香港と中国の学生・労働者を分断することに必死になっています。愛国主義（＝排外主義）を煽動する各国の権力者たちに反対し、立ち上がった香港の人々と連帯することを全世界の学生・労働者に訴えます。

さて今回の立て看板破壊についてですが、立て看板の破壊者は、簡体字の落書きを残しており、中国語話者——おそらく中国人留学生が関わっているのではないかと推測しています。全国大学においても香港連帯を訴えて活動する仲間に対して、「内政干渉をするな」等の主張で中国人留学生が抗議して来たということが何件か起きていることも推測の根拠となっています。非常に残念なことですが、香港現地でも中共に同調するグループが警察の公然なる庇護の下、デモ隊への暴力を繰り返しています。今回の立て看板破壊は、これと軌を一にするものです。その意味で私たちの立て看板は、香港の学生が日々受けている抑圧と暴力を私たち日本人にまざまざと見せつけるシンボルになったのではないかと考えます。私たちとしては、そのまま残すことも有意義であると考えましたが、安全上の理由から撤去すべきではないかという不安の声もあったため今回は撤去することとしました。しかし多くの学生の中に、今回の事件は記憶として留めておいて欲しいと願います。

その上で私たちとしてはっきりとさせたいことは、今回の件で中国人留学生全体が非難の目で見られるようなことがあっては絶対にならないということです。良心的な中国人留学生の皆さんの多くも今回の事件に胸を痛めたことでしょう。香港との連帯にかけても、この事件が中国人への排外主義に回収されることは決してあってはなりません。また私たちは今回の事件によって、警察権力の介入がもたらされることには絶対に反対です。私たちが警察に対して被害届を出すことはありません。警察に対処を請うことは、国家権力からの学問の自由を求める大学自治・学生自治の理念に反するものであり、大学内で起こった問題を自ら解決できないことの表明に他ならないからです。もちろんこれは立て看板破壊という行為について不問に付すものではありません。私たちの主張に異論がある方がいるのであれば、それは今回のような形での対応ではなく対話がなされることを強く求めます。私たちは、自らの主張を批判されることから逃げるものではありません。今回の声明を通して改めて香港連帯を表明すると共に、それに賛同できない学生・教職員の皆さんへも対話を呼びかけます。

今回明らかになった分断は、深めるのではなく乗り越えなければならないものです。日本、香港、中国、そして各国の学生はともに団結して、権力者による抑圧と暴力のない社会のために立ち上がりましょう。そのためにも世界的な焦点となっている香港—中国（共産党）政府による民衆への暴力を終わらせようではありませんか！ 私たちは、その最先頭で闘うことを誓います。 ■